

当座勘定規定(一般用)

第1条(当座勘定への受入れ)

- (1)当座勘定には、現金のほか、手形、小切手、利札、郵便為替証書、配当金領収証その他の証券で直ちに取立てのできるもの(以下「証券類」という。)も受入れます。
- (2)手形要件、小切手要件の白地はあらかじめ補充して下さい。当金庫は白地を補充する義務を負いません。
- (3)証券類のうち裏書等の必要があるものは、その手続を済ませて下さい。
- (4)証券類の取立てのため特に費用を要する場合には、店頭掲示の代金取立手数料に準じてその取立手数料をいただきます。

第2条(証券類の受入れ)

- (1)証券類を受入れた場合には、当店で取立て、不渡返還時限の経過後その決済を確認したうえでなければ、支払資金としません。
- (2)当店を支払場所とする証券類を受入れた場合には、当店でその日のうちに決済を確認したうえで、支払資金とします。

第3条(本人振込み)

- (1)当金庫の他の本支店または他の金融機関を通じて当座勘定に振込みがあった場合には、当金庫で当座勘定元帳へ入金記帳したうえでなければ、支払資金としません。ただし、証券類による振込みについては、その決済の確認もしたうえでなければ、支払資金としません。
- (2)当座勘定への振込みについて、振込通知の発信金融機関から重複発信等の誤発信による取消通知があった場合には、振込金の入金記帳を取消します。

第4条(第三者振込み)

- (1)第三者が当店で当座勘定に振込みをした場合に、その受入れが証券類によるときは、第2条と同様に取扱います。
- (2)第三者が当金庫の他の本支店または他の金融機関を通じて当座勘定に振込みをした場合には、第3条と同様に取扱います。

第5条(受入証券類の不渡り)

- (1)前3条によって証券類による受入れまたは振込みがなされた場合に、その証券類が不渡りとなったときは、直ちにその旨を本人に通知するとともに、その金額を当座勘定元帳から引落し、本人からの請求がありしだいその証券類は受入れた店舗、または振込みを受付けた店舗で返却します。ただし、第4条の場合の不渡証券類は振込みをした第三者に返却するものとし、同条第1項の場合には、本人を通じて返却することもできます。
- (2)前項の場合には、あらかじめ書面による依頼を受けたものにかぎり、その証券類について権利保全の手続をします。

第6条(手形、小切手の金額の取扱い)

手形、小切手を受入れまたは支払う場合には、複記のいかんにかかわらず、所定の金額欄記載の金額によって取扱います。

第7条(手形、小切手の支払等)

- (1)小切手が支払のために呈示された場合、または手形が呈示期間内に支払のため呈示された場合には、当座勘定から支払います。
- (2)前項の支払にあたっては、手形または小切手の振出しの事実の有無等を確認すること(その旨について書面の交付を求めることを含みます)があります。
- (3)当座勘定の払戻しの場合には、小切手または当金庫所定の払戻請求書を使用して下さい。
- (4)前項の払戻しに払戻請求書を使用する場合は、届出の印章により記名押印のうえ、当座勘定の口座番号が確認できる資料とともに提出して下さい。また、払戻しに際して、当金庫所定の本人確認書類の提示等を求めることがあります。求められた本人確認書類の提示等がない場合には、取引を行うことはできません。

第8条(手形、小切手用紙)

- (1)当金庫を支払人とする小切手または当店を支払場所とする約束手形を振出す場合には、当金庫が交付した用紙を使用して下さい。
- (2)当店を支払場所とする為替手形を引受ける場合には、預金業務を営む金融機関の交付した手形用紙であることを確認して下さい。
- (3)前2項以外の手形または小切手については、当金庫はその支払をしません。
- (4)当座勘定から支払をした手形または小切手のうちに、本人が振出したものではないものや改ざんが疑われるものがあつた場合には、直ちに当金庫宛に連絡して下さい。
- (5)手形用紙、小切手用紙の請求があつた場合には、必要と認められる枚数を実費で交付します。
- (6)当座勘定から支払をした手形または小切手の用紙はその支払日から3か月を経過した場合は返却を求めることができないものとします。
- (7)前項の期間を経過した場合において、本人から請求があつたときは、当金庫所定の手続きによって当該手形または小切手の写しを交付します。ただし、当金庫が定める写しの保管期限を経過した場合は、その限りではありません。

第9条(支払の範囲)

- (1)呈示された手形、小切手等の金額が当座勘定の支払資金をこえる場合には、当金庫はその支払義務を負いません。
- (2)呈示された手形、小切手は、呈示日の15時まで当座勘定に受入れまたは振込まれた資金により支払います。ただし、当金庫の裁量により15時以降に入金した資金を支払いに充当することもできるものとします。
- (3)手形、小切手の金額の一部支払はしません。

第10条(支払の選択)

同日に数通の手形、小切手等の支払をする場合にその総額が当座勘定の支払資金をこえるときは、そのいずれを支払うかは当金庫の任意とします。

第 11 条（過振り）

- (1)第9条の第1項にかかわらず、当金庫の裁量により支払資金をこえて手形、小切手等の支払をした場合には、当金庫からの請求がありしだい直ちにその不足金を支払って下さい。
- (2)前項の不足金に対する損害金の割合は年18.25%(年365日の日割計算)とし、当金庫所定の方法によって計算します。
- (3)第1項により当金庫が支払をした後に当座勘定に受入れまたは振込まれた資金は、同項の不足金に充当します。
- (4)第1項による不足金、および第2項による損害金の支払がない場合には、当金庫は諸預り金その他の債務と、その期限のいかんにかかわらず、いつでも差引計算することができます。
- (5)第1項による不足金がある場合には、本人から当座勘定に受入れまたは振込まれている証券類は、その不足金の担保として譲り受けたものとします。

第 12 条（手数料等の引落とし）

- (1)当金庫が受取るべき貸付金利息、割引料、手数料、保証料、立替費用、その他これに類する債権が生じた場合には、小切手によらず、当座勘定からその金額を引落すことができるものとします。
- (2)当座勘定から各種料金等の自動支払をする場合には、当金庫所定の手続をして下さい。

第 13 条（支払保証に代わる取扱い）

小切手の支払保証はしません。ただし、その請求があるときは、当金庫は自己宛小切手を交付し、その金額を当座勘定から引落します。

第 14 条（印鑑等の届出）

- (1)当座勘定の取引に使用する印鑑（または署名鑑）は、当金庫所定の用紙を用い、あらかじめ当店に届出て下さい。
- (2)代理人により取引をする場合には、本人からその氏名と印鑑（または署名鑑）を前項と同様に届出て下さい。

第 15 条（届出事項の変更）

- (1)手形、小切手、約束手形用紙、小切手用紙、印章を失った場合、または印章、名称、商号、代表者、代理人、住所、電話番号その他届出事項に変更があった場合には、直ちに書面によって当店に届出て下さい。
- (2)前項の届出の前に届出を行わなかったことにより生じた損害については、当金庫は責任を負いません。
- (3)第1項による届出事項の変更の届出がなかったために、当金庫からの通知または送付する書類等が延着または到達しなかった場合には、通常到達すべきときに到達したものとみなします。

第 16 条（印鑑照合等）

- (1)手形、小切手、払戻請求書または諸届け書類に使用された印影または署名（電磁的記録により当金庫に画像として送信されるものを含みます）を、届出の印鑑（または署名鑑）と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたうえは、その手形、小切手、払戻請求書、諸届け書類につき、偽造、変造その他の事故があっても、そのために生じた損害については、当金庫は責任を負いません。
- (2)手形、小切手として使用された用紙（電磁的記録により当金庫に画像として送信されるものを含みます）を、相当の注意をもって第8条の交付用紙であると認めて取扱いましたうえは、その用紙につき模造、変造、流用があっても、そのために生じた損害については、前項と同様とします。
- (3)この規定および別に定める手形用法、小切手用法に違反したために生じた損害についても、第1項と同様とします。

第 17 条（振出日、受取人記載もれの手形、小切手）

- (1)手形、小切手を振出したまたは為替手形を引受ける場合には、手形要件、小切手要件をできるかぎり記載して下さい。もし、小切手もしくは確定日払の手形で振出日の記載のないものまたは手形で受取人の記載のないものが呈示されたときは、その都度連絡することなく支払うことができます。
- (2)前項の取扱いによって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

第 18 条（線引小切手の取扱い）

- (1)線引小切手が呈示された場合、その裏面に届出印の押なつ（または届出の署名）があるときは、その持参人に支払うことができます。
- (2)前項の取扱いをしたため、小切手法第38条第5項の規定による損害が生じても、当金庫はその責任を負いません。また、当金庫が第三者にその損害を賠償した場合には、振出人に求償できるものとします。

第 19 条（自己取引手形等の取扱い）

- (1)手形行為に取締役会の承認、社員総会の認許その他これに類する手続を必要とする場合でも、その承認等の有無について調査を行なうことなく、支払をすることができます。
- (2)前項の取扱いによって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

第 20 条（利息）

当座預金には利息をつけません。

第 21 条（残高の報告）

当座勘定の受払または残高の照会があった場合には、当金庫所定の方法により報告します。

第 22 条（譲渡、質入れの禁止）

この預金は、譲渡または質入れすることはできません。

第23条（反社会的勢力との取引拒絶）

この当座勘定は、第25条第2項、第3項各号のいずれにも該当しない場合に利用することができ、第25条第2項、第3項各号の一にでも該当する場合には、当金庫はこの当座勘定の開設をお断りするものとします。

第24条（取引の制限等）

- (1)当金庫は、預金者の情報および具体的な取引の内容等を適切に把握するため、提出期限を指定して各種確認や資料の提出を求めることがあります。預金者から正当な理由なく指定した期限までに回答いただけない場合には、入金、払戻し等の本規定にもとづく取引の一部を制限する場合があります。
- (2)前項の各種確認や資料の提出の求めに対する預金者の回答、具体的な取引の内容、預金者の説明内容およびその他の事情を考慮して、当金庫がマネー・ローンダリング、テロ資金供与、もしくは経済制裁関係法令等への抵触のおそれがあると判断した場合には、入金、払戻し等の本規定にもとづく取引の一部を制限する場合があります。
- (3)前2項に定めるいずれの取引の制限についても、預金者からの説明等にもとづき、マネー・ローンダリング、テロ資金供与、または経済制裁関係法令等への抵触のおそれが合理的に解消されたとき当金庫が認める場合、当金庫は当該取引の制限を解除します。

第25条（解約等）

- (1)この取引は、当事者の一方の都合でいつでも解約することができます。ただし、当金庫に対する解約の通知は書面によるものとします。
- (2)次の各号の一にでも該当した場合には、当金庫はこの預金取引を停止し、または預金者に通知するなどにより、この預金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当金庫が解約の通知を届出のあった氏名、住所にあてて発信したときに解約されたものとします。
 - ①この預金口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
 - ②この預金の預金者が第22条に違反した場合
 - ③この預金がマネー・ローンダリング、テロ資金供与、経済制裁関係法令等に抵触する取引に利用され、またはそのおそれがあると合理的に認められる場合
 - ④この預金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合
- (3)前項のほか、次の各号の一にでも該当し、当金庫が取引を継続することが不適切である場合には、当金庫はこの取引を停止し、または解約の通知をすることによりこの当座勘定を解約することができるものとします。なお、この解約によって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。また、この解約により当金庫に損害を生じたときは、その損害額を支払ってください。
 - ①当座勘定開設申込時にした表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明した場合
 - ②本人が、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなったときから5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当し、または次のいずれかに該当することが判明した場合
 - A. 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
 - B. 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
 - C. 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど不当に暴力団員等を利用してしていると認められる関係を有すること
 - D. 暴力団員等に対して資金等を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
 - E. 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
 - ③本人が、自らまたは第三者を利用して次のいずれか一にでも該当する行為をした場合
 - A. 暴力的な要求行為
 - B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - D. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて当金庫の信用を毀損し、または当金庫の業務を妨害する行為
 - E. その他前各号に準ずる行為

- (4)当金庫が解約の通知を届出の住所にあてて発信した場合に、その通知が延着または到達しなかったときは、通常到達すべき時に到達したものとみなします。
- (5)手形交換所の取引停止処分を受けたために、当金庫が解約する場合には、到達のいかんにかかわらず、その通知を発信した時に解約されたものとします。

第26条（取引終了後の処理）

- (1)この取引が終了した場合には、その終了前に振出された約束手形、小切手または引受けられた為替手形であっても、当金庫はその支払義務を負いません。
- (2)前項の場合には、未使用の手形用紙、小切手用紙は直ちに当店へ返却するとともに、当座勘定の決済を完了して下さい。

第27条（手形交換所規則による取扱い）

- (1)この取引については、前各条のほか、関係のある手形交換所の規則に従って処理するものとします。
- (2)関係のある手形交換所で災害、事変等のやむをえない事由により緊急措置がとられている場合には、第7条の第1項にかかわ

らず、呈示期間を経過した手形についても当座勘定から支払うことができるなど、その緊急措置に従って処理するものとします。

(3)前項の取扱いによって生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

第28条（成年後見人等の届出）

- (1)家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を届出て下さい。また、預金者の補助人・保佐人・後見人について、家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始されたときも、同様に届け出てください。
- (2)家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに、書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を届出て下さい。
- (3)すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前2項と同様に、直ちに書面によって届出て下さい。
- (4)前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって届出て下さい。
- (5)前4項の届出を行わなかったことにより生じた損害については、当金庫は責任を負いません。

第29条（休眠預金等活用法に係る最終異動日等）

- (1)この預金等について、休眠預金等活用法における最終異動日等とは、次に掲げる日のうち最も遅い日をいうものとします。
 - ①当金庫ウェブサイトに掲げる異動が最後にあった日
 - ②将来における預金等に係る債権の行使が期待される事由として次項で定めるものについては、預金等に係る債権の行使が期待される日として次項において定める日
 - ③当金庫が預金者、積金契約者、本人（以下これらを「預金者等」といいます。）に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を発した日。ただし、当該通知が預金者等に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者等の意思によらないで返送されたときを除く。）に限りします。
 - ④この預金等が休眠預金等活用法第2条第2項に定める預金等に該当することとなった日
- (2)第1項第2号において、将来における預金等に係る債権の行使が期待される事由とは、次の各号に掲げる事由のみをいうものとし、預金等に係る債権の行使が期待される日とは、当該各号に掲げる事由に応じ、当該各号に定める日とします。
 - ①預入期間（契約期間）、計算期間または償還期間の末日（自動継続扱いの預金等にあっては、初回満期日）
 - ②初回の満期日後に次に掲げる事由が生じたこと／当該事由が生じた期間の満期日
 - A. 異動事由（当金庫ウェブサイトにおいて「異動事由」として掲げる事由をいいます。）
 - B. 当金庫が預金者等に対して休眠預金等活用法第3条第2項に定める事項の通知を発したこと。ただし、当該通知が預金者等に到達した場合または当該通知を発した日から1か月を経過した場合（1か月を経過する日または当金庫があらかじめ預金保険機構に通知した日のうちいずれか遅い日までに通知が預金者等の意思によらないで返送されたときを除く。）に限りします。
 - ③法令、法令にもとづく命令もしくは措置または契約により、この預金等について支払が停止されたこと／当該支払停止が解除された日
 - ④この預金等について、強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）の対象となったこと／当該手続が終了した日
 - ⑤法令または契約にもとづく振込の受入れ、口座振替その他の入出金が予定されていることまたは予定されていたこと（ただし、当金庫が入出金の予定を把握することができるものに限りします。）／当該入出金が行われた日または入出金が行われないことが確定した日
 - ⑥総合口座取引規定にもとづく他の預金等について、当該他の預金等に係る債権の行使が期待される事由が生じたこと／他の預金等に係る最終異動日等

第30条（休眠預金等代替金に関する取扱い）

- (1)この預金等について長期間お取引がない場合、休眠預金等活用法にもとづきこの預金等に係る債権は消滅し、預金者等は、預金保険機構に対する休眠預金等代替金債権を有することになります。
- (2)前項の場合、預金者等は、当金庫を通じてこの預金等に係る休眠預金等代替金債権の支払を請求することができます。この場合において、当金庫が承諾したときは、預金者等は、当金庫に対して有していた預金等債権を取得する方法によって、休眠預金等代替金債権の支払を受けることができます。
- (3)預金者等は、第1項の場合において、次に掲げる事由が生じたときは、休眠預金等活用法第7条第2項による申出および支払の請求をすることについて、あらかじめ当金庫に委任します。
 - ①この預金等について、振込み、口座振替その他の方法により、第三者からの入金または当金庫からの入金であって法令または契約に定める義務にもとづくもの（利子の支払に係るものを除きます。）が生じたこと
 - ②この預金等について、手形または小切手の提示その他の第三者による債権の支払の請求が生じたこと（当金庫が当該支払の請求を把握することができる場合に限りします。）
 - ③この預金等に係る休眠預金等代替金の支払を目的とする債権に対する強制執行、仮差押えまたは国税滞納処分（その例による処分を含みます。）が行われたこと

④この預金等に係る休眠預金等代替金の一部の支払が行われたこと

(4)当金庫は、次の各号に掲げる事由を満たす場合に限り、預金者等に代わって第3項による休眠預金等代替金の支払を請求することを約します。

①当金庫がこの預金等に係る休眠預金等代替金について、預金保険機構から支払等業務の委託を受けていること

②この預金等について、第3項第2号に掲げる事由が生じた場合には、当該支払への請求に応じることを目的として預金保険機構に対して休眠預金等代替金の支払を請求すること

③前項にもとづく取扱いを行う場合には、預金者等が当金庫に対して有していた預金等債権を取得する方法によって支払うこと

第31条（規定の変更）

(1)本規程の各条項は、金融情勢の状況の変化やその他相当の事由があると認められる場合には、ホームページへの掲載による公表、その他相当の方法で周知することにより変更できるものとします。

(2)前項の変更は、公表等の際に定める適用開始日から適用されるものとします。

以上

約束手形用法

- 1. この手形用紙は、当店における貴方名義の当座勘定にかぎり使用し、他の当座勘定に使用したり、他人に譲り渡すことはしないで下さい。
- 2. 手形のお振出しにあたっては、金額、住所、支払期日を明確に記入し、記名なつ印に際しては、当店へお届けのご印章を使用して下さい。住所の記載があれば振出地の記入は省略することができます。なお、改ざん防止のために消しにくい筆記具を使用して下さい
- 3. 振出日、受取人の記載は手形要件となっておりますから、できるだけ記入して下さい。
- 4. (1)金額は所定の金額欄に記入して下さい。
(2)金額をアラビア数字(算用数字、1、2、3……)で記入するときは、チェックライターを使用し、金額の頭には「¥」を、その終りには、「※」、「★」などの終止符号を印字するほか、3桁ごとに「,」を印字して下さい。なお、文字による複記はしないで下さい。
(3)金額を文字で記入するときは、文字の間をつめ、下表の文字一覧のとおり改ざんしにくい文字を使用し、金額の頭には「金」を、その終りには「円」を記入して下さい。また、崩し字は使用せず、楷書で丁寧に記入して下さい。
(4)金額欄には、第2項または第3項に掲げる事項以外の記入は一切行わないで下さい。特になつ印や金額の複記が金額欄に重なることがないようにして下さい。
- 5. 金額を誤記されたときは、訂正しないで新しい手形用紙を使用して下さい。金額以外の記載事項を訂正するときは、訂正箇所にお届け印をなつ印して下さい。ただし、訂正の記載やなつ印が、金額欄、銀行名、QRコード欄に重なることがないようにして下さい。
- 6. 手形用紙の右上辺、右辺ならびに下辺(クリアーバンド)などの余白部分(下図斜線部分)は使用しないで下さい。また、記名なつ印や金額の複記その他の記載がQRコード欄に重なることがないようにして下さい。
- 7. 手形用紙は大切に保管し、万一、紛失、盗難などの事故があったときは、当金庫所定の用紙によりただちに届出て下さい。
- 8. 手形用紙は、当金庫所定の受取書に記名なつ印(お届け印)のうえ請求して下さい。
- 9. 自署によるお取引の場合は、記名なつ印にかえ自署して下さい。ただし、記載事項の訂正には姓だけをお書き下さい。

●金額を文字で記入する場合に使用する文字一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	100	1,000	10,000
漢数字	壹	貳	参	肆	伍	陸	柒	捌	玖	拾	百	千	万
〈その他〉金、円、圓(円の異体字)、億													
※お取扱い上の誤り防止等のため、上表以外の異体字、崩し字のご使用はお控え下さい。													

●約束手形用紙

No.

約束手形

収入
印紙

金額

股

支払期日 令和 年 月 日

支払地

支払場所

上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引替えにお支払いいたします

令和 年 月 日

振出地
住所

振出人



為替手形用法

1. この手形用紙を用紙のままで他人に譲り渡すことはしないで下さい。
2. 手形のお振出しにあたっては、支払人(引受人)が金融機関と当座勘定取引があることをできるだけ確かめて下さい。
3. 手形のお振出しにあたっては、金額、住所、支払期日などを明確に記入して下さい。住所の記載があれば振出地の記入は省略することができます。なお、改ざん防止のために消しにくい筆記具を使用して下さい。
4. 振出日、支払人、受取人の記載は手形要件となっておりますから、できるだけ記入して下さい。
5. (1)金額は所定の金額欄に記入して下さい。
(2)金額をアラビア数字(算用数字、1、2、3……)で記入するときは、チェックライターを使用し、金額の頭には「¥」を、その終りには「※」、「★」などの終止符号を印字するほか、3桁ごとに「,」を印字して下さい。なお、文字による複記はしないで下さい。
(3)金額を文字で記入するときは、文字の間をつめ、下表の文字一覧のとおり改ざんしにくい文字を使用し、金額の頭には「金」を、その終りには「円」を記入して下さい。また、崩し字は使用せず、楷書で丁寧な記入して下さい。
(4)金額欄には、第2項または第3項に掲げる事項以外の記入は一切行わないで下さい。特になつ印や金額の複記が金額欄に重なることがないようにして下さい。
6. 金額を誤記されたときは、訂正しないで新しい手形用紙を使用して下さい。金額以外の記載事項を訂正するときは、訂正箇所にお届け印をなつ印して下さい。ただし、訂正の記載やなつ印が、金額欄、銀行名に重なることがないようにして下さい。
7. 当店を支払場所とする手形のお引受けにあたっては、支払地、支払場所などを明確に記入のうえ、記名なつ印には、当店へお届けのご印章を使用して下さい。
8. 手形用紙の右上辺、右辺ならびに下辺(クリアバンド)などの余白部分(下図斜線部分)は使用しないで下さい。
9. 手形用紙は大切に保管して下さい。当店を支払場所とする手形について、万一、紛失、盗難などの事故があったときは、当金庫所定の用紙によりただちに届出て下さい。
10. 手形用紙は、当金庫所定の受取書に記名なつ印(お届け印)のうえ請求して下さい。
11. 自署によるお取引の場合は、記名なつ印にかえ自署して下さい。ただし、記載事項の訂正には姓だけをお書き下さい。

●金額を文字で記入する場合に使用する文字一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	100	1,000	10,000
漢数字	壹	貳	参	四	五	六	七	八	九	拾	百	千	万

＜その他＞ 金、円、圓(円の異体字)、億

※お取扱上の誤り防止等のため、上表以外の異体字、崩し字のご使用はお控え下さい。

●為替手形用紙

No. _____		為 替 手 形 No. _____	
取 入 印 紙	支払人(引受人)		支払期日 令和 年 月 日
	金 額		支払地
	(受取人)		支払場所
	令和 年 月 日		引 受 令和 年 月 日
振出地 住 所 振出人		拒絶証書不要	
		商業文書のひのき様	

小切手用法

- 1. この小切手用紙は、当店における貴方名義の当座勘定にかぎり使用し、他の当座勘定に使用したり、他人に譲り渡すことはしないで下さい。
- 2. 小切手のお振出しにあたっては、当座勘定の残高を確認して下さい。なお、先日付の小切手でも呈示をうければ、支払うことになりますからご承知おき下さい。
- 3. 小切手のお振出しにあたっては、金額、振出日などを明確に記入し、記名なつ印に際しては、当店へお届けのご印章を使用して下さい。なお、改ざん防止のために消しにくい筆記具を使用して下さい。
- 4. (1)金額は所定の金額欄に記入して下さい。
(2)金額をアラビア数字(算用数字、1、2、3……)で記入するときは、チェックライターを使用し、金額の頭には「¥」を、その終りには、「※」、「★」などの終止符号を印字するほか、3桁ごとに「,」を印字して下さい。なお、文字による複記はしないで下さい。
(3)金額を文字で記入するときは、文字の間をつめ、下表の文字一覧のとおり改ざんしにくい文字を使用し、金額の頭には「金」を、その終りには「円」を記入して下さい。また、崩し字は使用せず、楷書で丁寧に記入して下さい。
(4)金額欄には第2項または第3項に掲げる事項以外の記入は一切行わないで下さい。特になつ印や金額の複記が金額欄に重なることがないようにして下さい。
- 5. 金額を誤記されたときは、訂正しないで新しい小切手用紙を使用して下さい。金額以外の記載事項を訂正するときは、訂正箇所にお届け印をなつ印して下さい。ただし、訂正の記載やなつ印が、金額欄、銀行名、QRコード欄に重なることがないようにして下さい。
- 6. 小切手用紙の下辺余白部分(クリアーバンド：下図斜線部分)は使用しないで下さい。また、記名なつ印や金額の複記がQRコード欄に重なることがないようにして下さい。
- 7. 小切手用紙は大切に保管し、万一、紛失、盗難などの事故があったときは、当金庫所定の用紙によりただちに届出て下さい。
- 8. 小切手用紙は、当金庫所定の受取書に記名なつ印(お届け印)のうえ請求して下さい。
- 9. 自署だけによるお取引の場合は、記名なつ印にかえ自署して下さい。ただし、記載事項の訂正には姓だけをお書き下さい。

●金額を文字で記入する場合に使用する文字一覧

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	100	1,000	10,000
漢数字	壹	貳	参	四	五	六	七	八	九	拾	百	千	万

＜その他＞金、円、圓(円の異体字)、億
※お取扱い上の誤り防止等のため、上表以外の異体字、崩し字のご使用はお控え下さい。

●小切手用紙

No. _____

小切手

支払地

金額

上記の金額をこの小切手と引替えに
持参人へお支払いください
拒絶証書不要

振出日 令和 年 月 日

振出地 振出人

以上

2025年1月20日現在